



佐々先生の 海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方などを提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、sasa@keimei.ac.jp までお願いいたします。

啓明学園初等学校 校長 佐々 信行 (さっさ のぶゆき)

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）、ワシントン補習授業校を経て、現職。

「情報時代と本」

◆ 情報の時代に必要なこと

啓明学園では、新しい図書館とともに2007年度の学年がスタートしました。昨年度は全校をあげて、図書環境の充実に取り組んできましたが、今年もさらに力を入れていきます。

十年ほど前には、コンピューターをいち早く取り入れ、新しい技術を学習に生かせるような環境を整えてきました。しかし、すでに、家庭にもコンピューターが普及し、ゲームなどをとおして、コンピューターは、子どもたちの生活の中に深く入り込んできました。キーボードでの入力の方法や、検索エンジンを使っての情報の探し方などは、学校で教えるまでもなくできるようになっている子がたくさんいます。「コンピューターに親しむ」指導などが必要な時代ではなくなってきたのです。これからは、洪水のようにあふれる情報の中から、ほんとうに必要なものを見つけだすことができ、いらぬもの、害になるものに翻弄されることがないように力を育てていかなければなりません。

それには、一見逆説的に見えますが、コンピューターに頼らない学習体験をたくさん積んでおくことが必要です。また、今はむしろ、小さい時からコンピューターに頼ることによって、本来育つはずの力が育たないことを心配しなければなりません。

乱暴な例えで言えば、歩く練習を十分積んでない子に自動車の運転を教えるような愚かなことは避けなければいけません。まず自分の足でしっかり歩く力をつけ、次に三輪車や自転車を乗りこなせるようになり、十分な判断力や身のこなしを自分のものにしてから自動車の運転席に座るのが無理のない順番です。

◆ 本で調べる

自然のこと、人間のこと、世界のことを知るのに一番いい方法は何と言っても直接本物にふれることです。啓明学園初等学校では、1年生の時から、五感を使って物にふれ、自分の体験を通して考えるたくさんの活動をしています。作業をしたり、見学をしたり、いろいろな人に出会ってお話を聞いたりする機会をできるだけ多くするように心掛けています。

電子情報に処理された文字や映像を正しく読み取り、その情報の意味するところを深く理解するにも、より直接的な経験をどれだけ持っているかが鍵になります。猫の写真を見て説明を

読んだからと言って、猫のことを深く理解したとは言えません。猫のことがよく分かるのは、実際に猫と生活をともにし、猫の声や、においや、触った感触を知っている人です。

しかし、すべてのものに直接触れることはできませんし、すべての場所に行けるわけではありません。すべての人と話すこともできません。つぎによい方法は、本の力を借りることです。

文字や画像をとおして情報を得るという点では、本もインターネットも変わりありません。しかし、本を利用するときには、直接的な知識以上のものを得ることができます。そして、それが、小学生時代の子どもたちにとっては、決定的なちがいにあります。インターネット時代以前に子ども時代を過ごした人たちは自然に通って来た道なので、うっかり見過ごしてしまいがちですが、以前には当たり前だったことが今は当たり前ではなくなっていることを心しなければなりません。



図書委員会の活動